

令和4年度 第1回岡崎市地域福祉計画推進委員会 会議録

日時 令和4年8月25日(木)13:30～

場所 岡崎市役所西庁舎7階701号室

出席者 長岩委員長、野尻委員、大堀委員、大河内委員、前田委員、長坂(宏)委員、茂刈委員、西垣委員、鈴木(壽)委員、鈴木(正)委員、杉山委員、檀委員、坂口委員、山下委員

欠席者 長坂(秀)委員、加賀委員、内藤委員

事務局 福祉部：小河部長

ふくし相談課：齊藤課長、山下副課長、永田係長、平塚主事

社会福祉協議会：佐々木局長、井戸田課長、草次係長、本主任

傍聴者 なし

1 開会

2 挨拶

3 議事

議事(1) 第3次岡崎市地域福祉計画進捗について

事務局 資料1、2をもとに説明

長岩委員長 説明ありがとうございました。

御質問等あれば伺いたいと思います。

大堀委員 岡崎市の進捗における、認知症初期集中支援チームの設置について計画を下回るという評価ですが、実際には地域包括支援センターの職員方は十分に働いてくださっており多くの事例を解決しています。その中でも、自身で解決の難しい困難事例のみ支援チームが設置されるので、数値的には計画を下回る評価は仕方がないと考えます。

鈴木(正)委員 地域包括支援センターの職員の能力が高いとチーム設置には至らないことが多々あります。名古屋市では、認知症案件は全件数チーム設置に繋げるため報告件数は多くなります。岡崎市では各包括支援センターで概ね解決できているため、チームの設置数が少なくなっています。数値のみで評価を下すのは総括の観点が少し違うのではとも感じます。

事務局 評価体系ということで定量的に評価しますと、資料1でお示しのとおりとなりました。アウトプットとして見ると認知症支援の評価は計画を下回っていますが、先程の御発言のとおり認知症支援自体は岡崎市として十分に行っていると考えています。

この資料でお示しするのはあくまで定量評価であり、数値上のものです。

数字と実際の活動内容を御覧になったうえで、それが意味するものは何かと評価していただけたらと思います。

長岩委員長

ありがとうございました。この資料はあくまで数値上の評価をクリアしているか否かということになりますね。その他、御意見等ございますか。社会福祉協議会の事業における廃止とある若者サポートセンター事業について、気になったので質問します。この事業において、他へ移管とあるので、今後、社会福祉協議会は携わらないということになるのでしょうか。

杉山委員

事務局

こちらは令和3年4月に教育委員会の社会教育課が社会福祉協議会に委託し、ふくし相談課内に設置したものです。支援対象者の年齢区分の拡大や専門相談に人手がとられて支援が回りきらない部分もありましたので、リニューアルする形となりました。委託先は、プロポーザルにより選定しました。令和4年9月までは現行のままふくし相談課窓口で実施し、令和4年10月から福社会館2階に場所を移して相談対応に当たっていきます。

杉山委員

そうなると、教育委員会実施ということなので、地域福祉計画から外れるのでしょうか。

事務局

地域福祉計画は、他計画との整合を図り推進するものであり、地域共生社会に向けた包括的な支援体制を構築することが目的ですので、若者相談は社会福祉協議会の事業から外れますが、引き続き地域福祉計画の一環として扱っていきたいと考えています。

杉山委員

わかりました。

事務局

子どもの問題は、家庭の問題が関係することもありますので、引き続き福祉分野としても連携して相談支援を実施していきたいと考えています。

長岩委員長

総合相談において、こども部局や教育委員会との連携はどの市町も頭を悩ませているようですね。

事務局

子どもの問題の連携で実際に困るのは、虐待案件についてです。法律的に虐待案件は、通報を受けたら即座に行動に移らなくてはなりません。しかし、相談支援包括化推進員が扱う複合的な問題を抱えている家庭の支援では、今まで携わってきた関係機関との調整等慎重に進めていきたいようなケースもあります。そのあたりの兼ね合いが非常に難しいので、今後の課題として連携を深めていく必要があると考えています。

長岩委員長

わかりました。

次の議事に移ります。

議事(2)について事務局より説明をお願いします。

議事(2) 令和3年度地域福祉計画事業検討部会について

事務局

資料3をもとに説明

野尻委員

様々な社会問題の解決には福祉と違う分野の共同が必要ではないかと考

えます。特に子ども分野との連携は非常に重要であるので、地域福祉計画推進委員会に教育委員会や校長会等の学校関係者も巻き込むよう働きかけを事業検討部会から本会へお願いしたいと思います。

長岩委員長 令和3年度での取組が第4次岡崎市地域福祉計画に反映されていると見て取れると思います。

事務局 以前は、校長会会長を委員として迎えていたのですが、会議を開催してもほとんど出席いただけない、又は、1度も出席いただかず定年を迎え委員交代といった状態が続きました。そのため、現状は委員の構成員に含まれていないということになっています。現場や行政に出向されている先生を迎えるなど今後検討していきたいと思います。

野尻委員 岡崎市では既にスクールソーシャルワーカーが配備されていると伺っています。子どもの未来に係わることでありますので、是非とも教育委員会へ働きかけをお願いいたします。

事務局 少しずつではありますがスクールソーシャルワーカーの方々との連携は推し進めています。また、子どもの支援でいうと、学習支援や子ども食堂にも力を入れていきます。そういったサードプレイスの部分にも力を注ぎ、生活困窮者支援のフードドライブ事業もそうですが、地域づくりを行っていきたいと思います。

壇委員 市民の目線から申します。教育委員会に協力を仰ぐのももちろんですが、福祉側が出向いて一緒になって考え悩むというのも良いのではと思います。

長岩委員長 ありがとうございます。
次の議事に移ります。
議事(3)について事務局より説明をお願いします。

議事(3)第4次岡崎市地域福祉計画 KPI について

事務局 資料4をもとに説明

長岩委員長 説明ありがとうございました。
地位福祉において数値目標を設定するのは難しいかと思います。手探りで成果指標を定めていくことになりそうですね。皆様も資料を確認しておいていただければと思います。

ボランティアの観点から、ボランティア連絡協議会の鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木(壽)委員 岡崎市のボランティア団体は37ございまして、活動を休止しているところも多く、高齢者施設の訪問などは先方から訪問は遠慮してもらいたいといった実態が多いです。また、担い手の高齢化や家族の介護が必要となりボランティアに従事できないなど先細ってしまっているのが現状です。

長岩委員長 ありがとうございます。

山下委員
長岩委員長

山下委員はいかがでしょう。
岡崎市も広いのでやはり地域格差があるのだなというのを感じました。
ありがとうございます。
本日予定していた議事は以上となります。速やかな議事進行に御協力く
ださり、誠にありがとうございました。
それでは、進行を事務局へお返しします。

5 閉会

事務局

ありがとうございました。
これをもちまして令和4年度第1回岡崎市地域福祉計画推進委員会を閉
会いたします。

以上